

cumre REPORT

クムレレポート 2023



ごあいさつ

社会福祉法人クムレ
理事長 財前民男



福祉変革の年に

我が国の福祉は、戦後の混乱期、貧困や障がいから対象者を救済することを目的として、行政が施設へ収容・保護する、いわゆる措置制度をベースに発展してきました。

21世紀に入り、少子・高齢・人口減少社会が到来する中で、福祉は大きく変わろうとしています。それは、対象となる人たちを保護するだけでなく、社会自立へ向けて、施設内福祉から地域での福祉へと転換していこうというものです。

今後の介護・障がい報酬改定において、利用者の住まいや働く場の意向確認が義務付けられることにより、これから加速度的に転換が進んでいくと思われます。国連からも、日本では障がい者を区別して教育等が行われていることを、インクルーシブに変えるべきだと指摘されています。また、人口減少社会における街づくりにおいても、人種・年齢・性別・能力・価値観など、様々な違いを持った人々を認め合うダイバーシティ構想が進みつつあります。

これらの社会の大変革は、クムレの3年後・5年後・10年後の在り様を変えていくものと思われます。

今年度クムレは、将来の在りたい姿を描き、着実に前進していきたいと考えています。

従来、それぞれの事業所が単独で実施していた利用者支援を、複数の事業所が協働して取り組むとともに、多様な資格を持つ専門職が連携して利用者支援を実施していきます。

これらは、実践・研究発表会のテーマにもなっています。

利用する人や職員一人ひとりが、自分たちの描いた在りたい姿の実現に向けて、チャレンジしていくスタートの年にすべく取り組んでまいります。

今後ともご支援よろしくお願いたします。



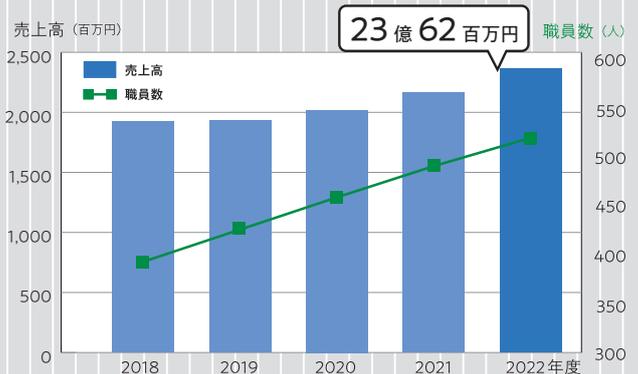
2022年度 事業報告

- ▷ 4月に多機能型重度グループホームおうちだを新規開設したこと等により、サービス活動収益（売上高）は23億円を超え、新型コロナウイルス感染症の影響で実績の落ち込みも見られたが昨年度に引き続き過去最高収益を更新した。
- ▷ 職員数が500人を超え、人件費率が昨年度より増加したことや物価高騰の影響で支出が膨らんだ影響が収支差の落ち込みに影響した。
- ▷ 新型コロナウイルス感染症等の感染症対策や自然災害への対応強化を図った。

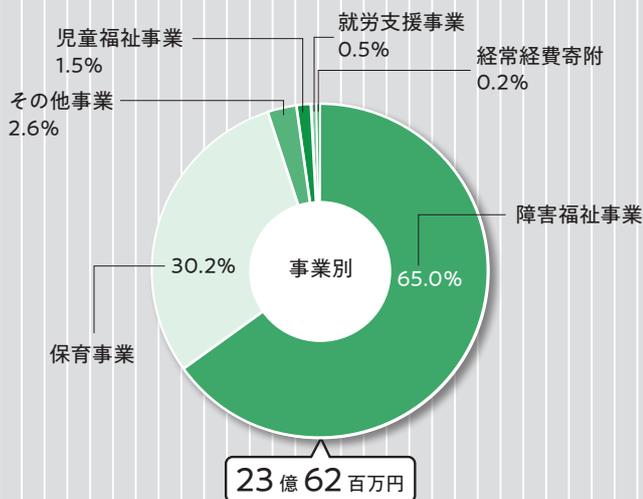
内閣府の令和5年3月の月例経済報告の総論では、「景気は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。」とあり、当法人においても収益は23億円を突破し、今年度も過去最高収益を達成する増収となりました。全国的に新型コロナウイルス感染症の状況は、依然として厳しい状況にあります。当法人では各事業所において感染対策や感染後の対応を着実に実施し、職員間の連携を図ることで、経営状況に大きな影響を及ぼすことはありませんでした。

また、引き続き感染症対策を徹底しながら、少しずつコロナ前の平時の状態に戻していくべく、しばらく中止していた事業を再開する等し、様々な取組や地域との関わりも、徐々にではありますが以前のように行えるようになってきました。

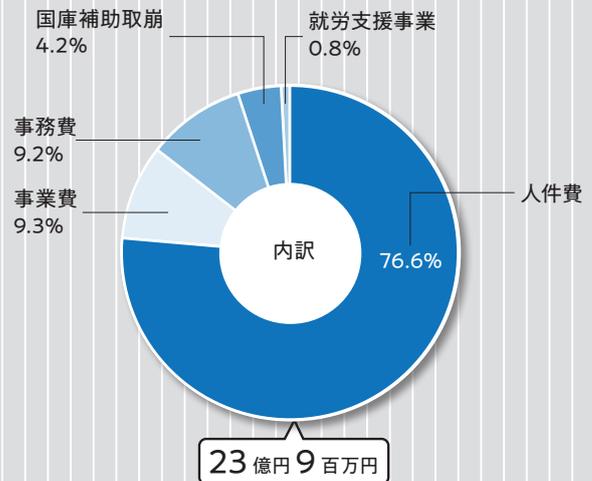
事業活動収入と職員数



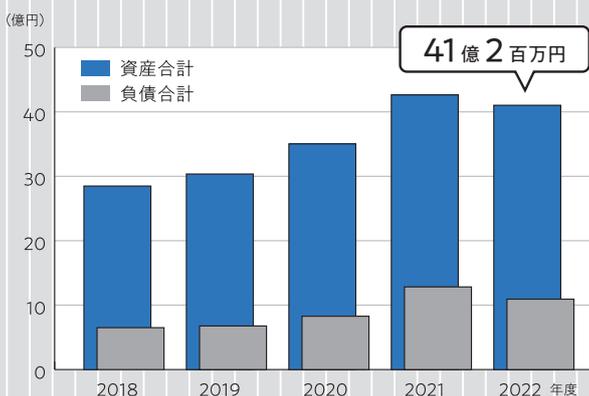
法人収入



法人支出



資産合計/負債合計



独自に実施する社会貢献活動

事業	金額 (円)
子育て支援・発達支援教室、引きこもり支援	185,968
SNS (LINE) を利用した相談事業	1,200,000
環境整備 (避難所対策・防災拠点)	1,239,359
子ども食堂 (ひだまりカフェ)	937,950
高齢者健康促進 (オレンジカフェ)	116,040
多世代交流の居場所支援	875,502
ボランティア活動支援	150,719
地域共生社会を推進するための活動費	332,414

クムレでは制度外の地域に向けた取り組みを、さまざまに展開しています。上記はその一部です。

2022
年度

栗坂エリア 事業報告

ありたい姿

栗の家にバリアはない、安心して安全に住み慣れた
場所で住み続けたい、魅力ある場所

倉敷学園

きらり
中庄

栗坂エリア
事業所

コトノハ

くりのおうち
保育園

集いの活動を実施

- オレンジカフェ
- 発達や子育てに関する相談
- ピアサポーター
- 不登校児会みらいっぽ
- 女子会
- 米作り
- 庄小学校・中学校での花の植え替え・水やり

ありたい姿の実現のために

今年度は、ひろば栗の家での子育て・発達・不登校児の集いの場、高齢者の体操の場等、感染対策に努めながら平時に戻していき、農業や清掃活動を小中学生や地域の方々ともに行うことができました。来年度も空間と時間を共にし、みんながお互いに気にかけることができる場を作っていきます。



2022
年度

岡山エリア 事業報告

ありがたい姿

障がいの有無や年齢に関わらず、子どもから高齢者までが
生きがいや役割を持って過ごせる地域



活動実施・地域参画

- 地域の親子クラブとの交流
- ぱんだ広場
- おうちだクラブ
- カラフル広場
- 大内田地区炊き出し訓練
- きびきびマルシェ
- まちかど博物館
- 町内会清掃



ありがたい姿の実現のために

2022年4月に開設したおうちだは、地域共生社会の実現を目指し、地域社会との関係づくりに力を入れてきました。来年度は、更に多機能の支援体制構築のため、多職種でのチームアプローチや多様な人財の育成を行い、一層の利用者支援充実を目指します。

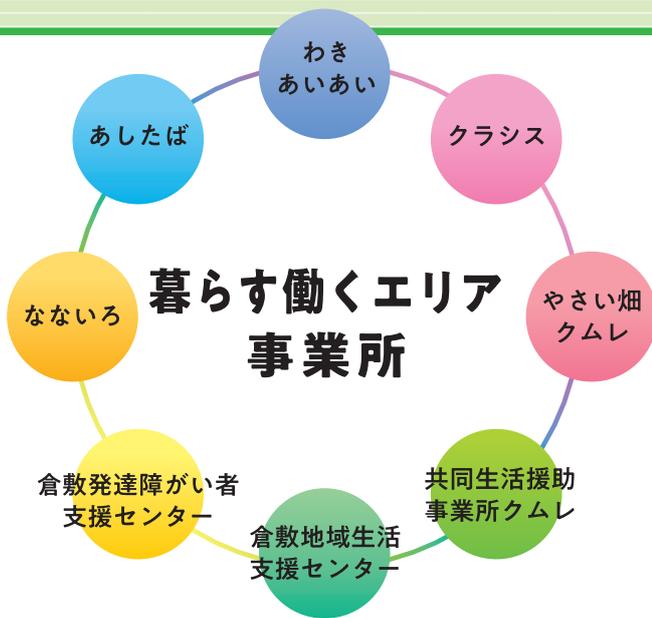


2022
年度

暮らす働くエリア事業報告

ありたい姿

重い障がいがあっても本人が生活者として
自立（自律）できる地域環境づくり

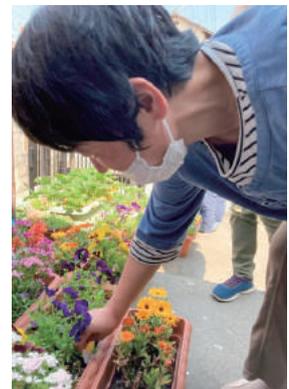


取組実績

- あしたば完全個室化
- わきあいあい通信発行
- やさい畑クムレ工賃アップ
6次産業化
施設外就労の増加
- SNS相談開始
- 大規模水害訓練
- クラシス一般就労移行支援継続

ありたい姿の実現のために

今年度は、各地域で公益的な取組に尽力し、災害時に共助の体制が取れるよう、平時から顔の見えるような関係作りに励みました。来年度は、ソーシャルインクルージョンに向け、公益的な取組の継続やSNS発信の強化、アート活動等を通じて、より地域の方を巻き込んでいきます。

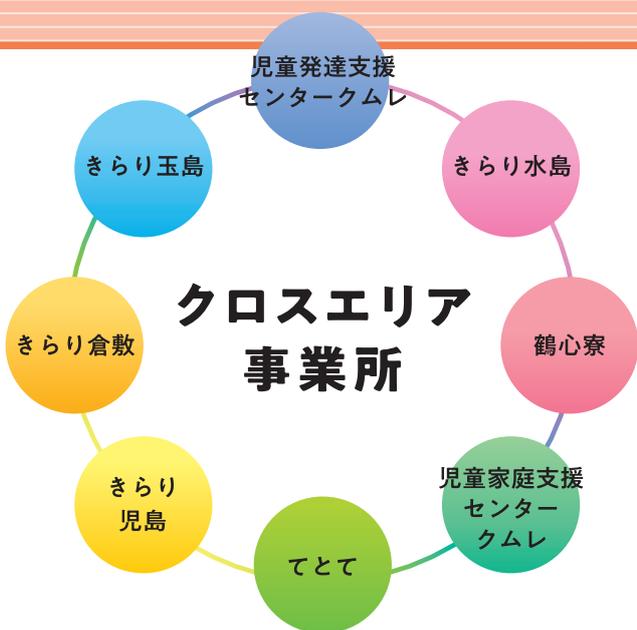


2022
年度

クロスエリア 事業報告

ありがたい姿

誰もが必要とされ、活躍できる地域へ



取組実績

- 児童発達支援センタークムレ にこにこ教室
- きらり水島 医療ケア児受入
- きらり倉敷 沖ベース設置
- きらり玉島 不登校児受入
- きらり児島 子ども食堂
- わたげ 地域住民と創る子どもを中心とした地域の居場所づくり
- 児童家庭支援センタークムレ 子ども宅食・ひだまりカフェ
- 鶴心寮 minakuru+ マルシェ

ありがたい姿の実現のために

今年度は、「子どもを中心とした家族」を応援してくれる仲間を増やし、全ての子どもが家庭の状況に左右されず暮らすことができる地域づくりに取り組みました。来年度は更に母子支援多機能プロジェクトや、保育園とともにインクルーシブの実現に向けた取り組みを進めていきます。



2022
年度

にじいろエリア事業報告

ありたい姿

子どもから大人まですべての人が仲間であり続ける地域づくり < Our Smile >



取組実績

- Welcome ベビー Day
- にじいろカフェ
- ひだまりカフェ
- クムレにこにこ教室
- 出張発達相談
- インスタグラムの発信
- 子ども宅食
- 水島小学校区防災デイキャンプ
- おしゃべりカフェ with オレンジカフェ
- スマイルクラブ

ありたい姿の実現のために

今年度は、障がいの有無に関わらずすべての子どもが健全に育つよう、地域住民と一緒に取り組んできました。来年度は、相談やSNSの活用により、多職種・他機関と連携しながら、生まれる前から18歳までの子どもの支援に取り組み、困りごとに寄り添えるようにしていきます。



参加児童 **66** 名

食を介した交流の場
「ひだまりカフェ」

体験学習
参加者 **213** 名

※延べ79名のボランティアや関係者のご協力を得て実施。

社会経験が少ない児童や、他者と関係を築くことが苦手な児童を対象に、食を介した交流の場(ひだまりカフェ)を月に1回開催。家庭環境や不登校等により体験が乏しい児童等を対象に体験学習を実施。「野菜栽培」、「収穫した野菜を活用したクッキング」、「柿・みかん狩り」、「石鹸・バスボン作り」、「自転車教室」、「趣味の会」、「作品展」、「学習会」など。

36 組 **77** 名
(毎月1回開催・年12回)

おひさまひろば

地域のボランティアさんが見守って下さる中、親子でおひさまの下、げんきいっぱい身体を動かしたりする場

利用人数 **105** 名

極楽体操

ストレッチのようなゆったりとした体操で身体をほぐします。様々な年代の方が参加しています。

参加者 各会

14 名 (毎月1回)

地域公益活動推進ミーティング

旧倉敷拠点の事業所から1名ずつ参加していただき、お互いの公益活動の情報共有をしたり実際に地域を歩くフィールドワークを行ったり、「その人らしく地域で暮らす」ために必要なことをみんなで考えるミーティングです。

延べ人数 **386** 名

新規登録 **52** 名

活動人数 **132** 名

いきいきボランティア(水島)

延べ **210** 名

上東商店

地域の小中学生の居場所として子どもたちが来店。上東商店は、小学生と大学生、クラス利用者、地域の方が交流できる居場所。



データで見る クムレの 利用者について

47 名

にじいろカフェ

親子や、近隣の方、日ごろからお世話になっている方々など、世代を超えて地域の方が集う場として開催。
いつも出店して下さるなじみのお店に加え、クレープ屋さんやフルーツサンド屋さんなど、新たなお店も出店。



43 組 **110** 名

(毎月1回開催・年12回)

音楽ひろば

親子で楽器遊びや表現遊びをしながら楽しんでいきます。

29 組 **60** 名

(毎月1回開催・年12回)

なかよし😊クラブ

~人をつなぐ、地域をつなぐ~

講座を通して、親子や地域の方と顔見知りになり、たくさんの笑顔と触れ合う事ができるクラブです。



利用人数 **163** 名

オレンジカフェ

認知症予防カフェ。認知症の当事者をはじめ、その家族の方や地域の方が参加できる場です。ストレッチのようなゆったりとした体操で身体をほぐします。終わった後は、参加者同士で1階のカフェでお茶やランチを楽しみます。

訪問カットしの

「ないものは作ろう」をコンセプトに長年プロの美容師として活躍していた「しのさん」が始めた事業。美容院に行きづらい方に気軽にカットを体験してもらえるように、という思いに共感し、ひろば栗の家や上東商店、おうちだを拠点として活用していただいています。予約受付も行っていきます。

年 **3** 回

凸凹お便り発行

目的:
当事者目線を踏まえた発達障がい理解の啓発を目的に発行。

方法:
当事者を含む編集会議を開催し、イラスト作画・校正・エピソード提供・配布等、当事者と協働で発行。

延べ **236** 名

沖ベース

地域に住む子ども達と地域で見守り、支えたい気持ちから平日と土曜日の夕方16時~17時事業所を開放して、カード遊び・YouTube・ボードゲーム・宿題等、子ども達に自由に過ごしてもらおう居場所です。さらに倉敷の事業所内のスペースを活用しています。(倉敷市沖193)

利用人数 **112** 名

11 回実施

さくらんぼの会

きょうだいじの会。
障がいのあるお子さんのきょうだいが集まる場。



食材や日用品の配付等

10 回

延べ **730** 世帯に配付

※延べ24名のボランティアと関係者の協力を得て実施。

助成:

一般社団法人こども宅食応援団
厚生労働省「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」
農林水産省「政府備蓄米交付」など



利用人数 **86** 名

11 回実施

ひまわりの会

倉敷学園を卒園されたお子さんが対象の卒園児の会です。卒園した後も卒園児さんと保護者の方が集まれる場所を準備しています。色々な活動や遊びの機会を準備しています。



45 組 **92** 名

(毎月1回開催・計12回)

パクパクランチ

小ざくら乳児保育園の給食を試食しながら栄養士さんに相談できる講座。
令和4年度より、みずたま歯科クリニックより歯科医師が来てくださり、相談できる場を設けています。



水島中学校区の
小中学校子育て家庭・年 **2** 回
地域住民の参加

学用品・部活用品

おゆずり会

「たすけあい」「支え合い」「分かち合い」に基づく「地域共生社会」を目指した活動。地域のみなさまの気持ちを届け、子どもたちの健やかな成長を応援する取り組み。

利用人数 **145** 名

14 回実施

マロンくらぶ

小学校で困りごとを抱えているお子さんに対し『ソーシャルスキルトレーニング(SST)』を用いて、協調性や社会性、パーソナルスペースの取り方を学ぶ場です。福祉サービスを利用してない倉敷市内の小学校に通う1年生~3年生(8名程度)を対象としています。

2022年度 決算報告書

(単位：円)

貸借対照表

〈2023年 3月31日現在〉

資産の部	
科目	決算額
流動資産	1,105,716,704
固定資産	2,996,403,402
(基本財産)	2,313,978,152
(その他固定資産)	682,425,250
資産の部合計	4,102,120,106

独立監査人の監査報告 2023年5月29日

監事の監査報告 2023年6月6日

【経営指標】	参考指標①	実績	備考
借入金比率	17.3%	16.4%	総資産に対する借入金残高の合計の割合
債務償還年数	4.6年	3.6年	事業活動資金収支差額に対する期末借入金残高の割合

※参考指標①：「社会福祉法人の現況報告書等の集約結果(2021年度版)」
(独立行政法人福祉医療機構)

負債の部	
科目	決算額
流動負債	265,385,282
固定負債	827,702,101
負債の部合計	1,093,087,383
純資産の部	
基本金	166,111,041
国庫補助積立金	630,203,430
その他の積立金	273,500,000
次期繰越活動増減差額	1,939,218,252
(うち当期活動増減差額)	68,335,301
純資産の部合計	3,009,032,723
負債及び純資産の部合計	4,102,120,106

資金収支計算書及び事業活動計算書

〈自 2022年4月1日 至 2023年3月31日〉

資金収支計算書		
勘定科目	決算額	
事業活動による収支	事業活動収入計(1)	2,382,216,960
	事業活動支出計(2)	2,195,439,637
	(人件費支出) <人件費率 73.3% > ※	1,745,834,068
	(その他支出)	449,605,569
	事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)	186,777,323
施設整備等による収支	施設整備等収入計(4)	8,611,287
	施設整備等支出計(5)	89,703,070
	施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)	△ 81,091,783
その他の活動による収支	その他の活動収入計(7)	31,371,904
	その他の活動支出計(8)	78,488,159
	その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)	△ 47,116,255
当期資金収支差額合計(10)=(3)+(6)+(9)	58,569,285	
前期末支払資金残高(11)	861,060,125	
当期末支払資金残高(10)+(11)	919,629,410	

※人件費支出 / 事業活動収入計による比率

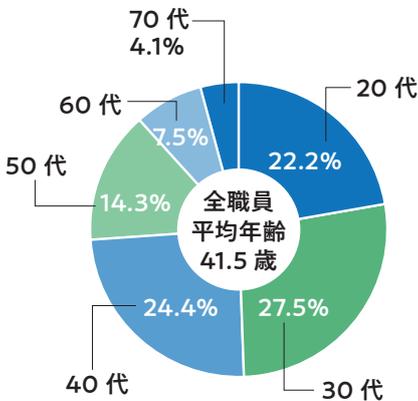
事業活動計算書		
勘定科目	決算額	
活動増減の部	サービス活動収益計(1)	2,362,964,557
	サービス活動費用計(2)	2,309,282,626
	サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)	53,681,931
増減の部	サービス活動外収益計(4)	19,252,403
	サービス活動外費用計(5)	4,524,438
	サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)	14,727,965
経常増減差額(7)=(3)+(6)	68,409,896	
増減の部	特別収益計(8)	8,473,865
	特別費用計(9)	8,548,460
	特別増減差額(10)=(8)-(9)	△ 74,595
当期活動増減差額(11)=(7)+(10)	68,335,301	
増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,900,882,951
	当期末繰越活動増減差額(13)=(11)+(12)	1,969,218,252
	基本金取崩額(14)	0
	その他の積立金取崩額(15)	20,000,000
	その他の積立金積立額(16)	50,000,000
次期繰越活動増減差額(13)+(14)+(15)-(16)	1,939,218,252	

【経営指標】	参考指標②	保育事業	障害福祉(児)	障害福祉(者)
人件費率	67.3%	68.4%	86.3%	69.8%
経費率	24.1%	23.2%	13.5%	27.3%

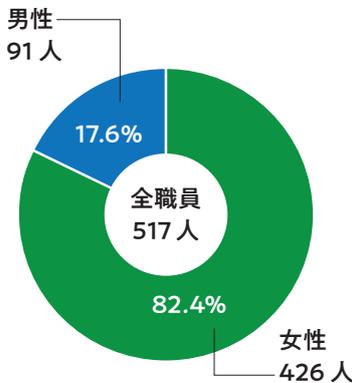
※参考指標②：「2021年度(令和3年度)社会福祉法人の経営状況について」(独立行政法人福祉医療機構)

職員について

年齢



男女比



職員の国家資格所有者

資格種別	保有人数
社会福祉士	50
精神保健福祉士	18
介護福祉士	56
看護師・准看護師	40
公認心理師	3
管理栄養士	16
言語聴覚士	3
作業療法士	4
理学療法士	2
保育士	224
幼稚園教諭	163

2023年3月31日現在

過去3年間の新卒採用者数

採用者



2022年	23名
2021年	20名
2020年	13名
合計	

過去3年間の1年未満の新卒離職者数

離職者



2022年	0名
2021年	1名
2020年	1名
合計	

月平均所定外労働時間



5.4時間
2022年度

平均年次有給休暇取得日数



9日
2022年度

役員及び管理的地位にある者に占める女性の割合



64.7%

(17名中11名) 2022年度
役員4名(うち女性3名)
管理者13名(うち女性8名)

育児休業取得対象者数(男女別)

対象者



女性 10名
男性 2名
合計 12名

2022年度

育児休業取得者数(男女別)

取得者



女性 10名
男性 1名
合計 11名

2022年度

産休・育休を取りやすい環境で、3人目、4人目を出産される職員も！小学3年生までは時短勤務を可能にしたりと、子育て中のママさん職員も働きやすい環境です。

2022年度実践発表会について

感染症対策を行いながら、2年ぶりに集合形式でクムレの実践発表会を開催しました。今年度は「新たなる福祉の文化を創造する拠点に～変化を恐れない勇気、挑む勇気、一歩前に～」をテーマに、各エリアグループに分かれて取り組んできました。昨年度までの倉敷・水島の2拠点から今年度は5エリアとし、地域と一緒に地域を支え合うための体制づくりや取り組みの他、企業や大学等との連携の取り組み等について発表しました。

理事長賞には『新型コロナウイルス感染症クラスターを経験して～ ONE TEAMでの感染症対策～』が、審査員賞には『「繋がる」×「繋げる」アウトリーチで紡ぐ子育て家庭支援のきっかけづくり～子ども宅食「みんなに届け隊」活動報告～』と『生まれる前からの支援、つなぐ支援』が選ばれました。

今後も更なる社会の変化をキャッチしながら、地域の中での生活に寄り添うことができる法人であり続けたいと思います。



データで見る相談件数

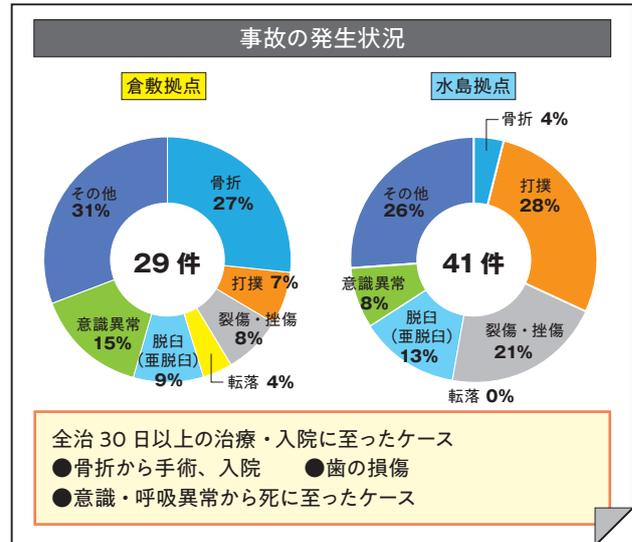
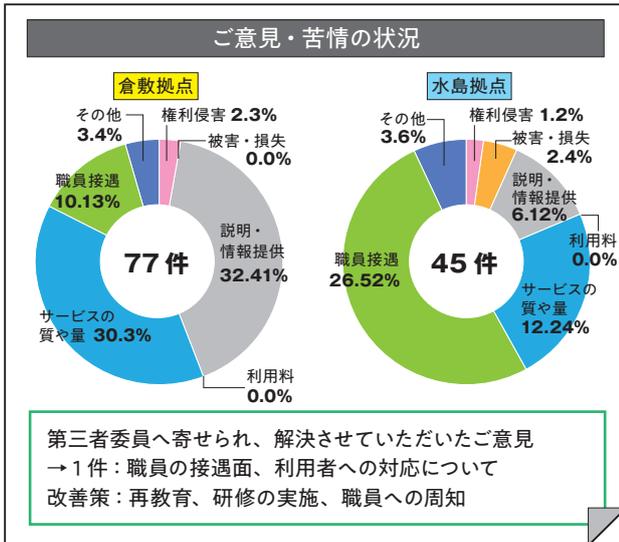
ご本人やご家族、地域の「気になる」や「困った」をキャッチして支援に繋ぐ、安心して生活し続けられるネットワーク作りを行う、そんな相談をデータでご紹介します！

倉敷学園 (相談事業) 145 件 (基本相談) 73 件	特定指定相談支援事業所・ 特定障がい指定相談事業所クムレととて (相談事業) 181 件 (基本相談) 50 件	おうちだ (相談事業) 38 件	倉敷地域生活 支援センター (相談事業) 1,563 件
児童家庭支援センター クムレ 3,585 件	倉敷発達障がい 者支援センター 2,554 件	小ざくら地域子育て 支援センター 282 件	DV 被害者等相談・ 自立支援充実事業 130 件
子ども何でも相談 総合ダイヤル 39 件	児童発達支援センター クムレ 8 件	児童発達支援事業所きらり (中庄・倉敷・児島・水島・玉島) 11 件	

● 0歳～18歳の発達についての相談を受けています。相談内容に応じて、専門職（社会福祉士・保育士・言語聴覚士・作業療法士等）が担当します。

リスクマネジメント委員会

当法人では、風通しの良い組織（風土）作りと圧倒的な安心・安全を実現するためにリスクマネジメント委員会を設置しています。リスクマネジメント委員会では、毎月各事業所の事故報告書（ヒヤリはっと・意見・要望・苦情含む）をもとに本人要因、職員要因、環境要因などから原因分析と防止策の検討、昨年度の同時期の傾向と比較して予防策の提案を職員に周知しています。



車両事故の発生状況 (単位：件)

自損事故	車両事故	人身事故	他損・物損	パンク	合計
5	7	0	4	2	18

無事故無違反チャレンジ 200 日への取り組み状況
エントリー：22 チーム (令和 4 年度 26 チーム参加)
達成：16 チーム

法人全体での公用車台数：74 台
通所系の事業所が多く、日々利用者の送迎を実施している。
交通事故撲滅と安全運転への意識向上を目指し、「無事故無違反チャレンジ 200 日」へ積極的に取り組む。

感染症クラスターの状況

8 月：児童発達支援センタークムレ
1 月：わきあいあい

新型コロナ クラスター発生においては、法人内で対策本部を立ち上げ、理事長を本部長とし情報共有、応援体制、改善策など終息に向け検討の場を設置

1 重点施策

- i . ありたい姿の実現に向けて、5つのエリアとベースキャンプが一緒に取り組める組織システムを構築する
- ii . クムレの共生型モデルと包括型支援体制の実現に向け、在宅支援を強化する
- iii . 今後の社会の変化に対応するため、新たな事業モデルを開拓していく
- iv . 経営のシステム化を進め、コア人材の育成と合わせ、経営基盤の強化を進める
- v . 2024年度に向けて収支の適正化に取り組むため、ICT等を活用し業務改善を行う

2 2025年に向けたクムレのありたい姿

「ともに育ち ともに生きる」の理念の実現に向け、「加わろう 地域のつながり 支え合い」を合言葉に、切れ目のない支援体制の構築に尽力してまいりました。厚生労働省の人口動態統計によりますと、2022年の出生数は統計を開始した1899年以降初めて80万人を割り込んで約77万人となり、少子高齢化の加速が益々進んでいる状況下において、誰もがともに支え合う地域共生社会モデルの構築を、地域との協働と実践の積み重ねを通じて実現していくことが重要です。

2022年4月に開設した多機能型重度グループホーム「おうちだ」や水島・連島地区での「わたげ」での各取組により、地域共生型事業モデルの実現を図りました。そして、2023年4月には「訪問看護ステーションクムレ」の開設及び「放課後児童健全育成事業水島仲よしクラブ」の運営を受託し、包括型支援体制の実現に向けた新たな取組を開始し、強化を図っております。

また、今日の少子高齢化の加速や人口減少の局面において、その待ったなしの社会変化に対応すべく、地域の中で福祉に関わる人材を育成していくことが必要です。多様性・包括性を持った人材の循環システムを構築し、来るべき今後の社会変化への対応を推し進めるため、アジャイル方式のコンパクトなPDCAサイクルを推進する体制へと転換します。また2022年度から経営品質協議会のコンサルテーションを受け、法人のありたい姿を実現するためのランドデザインを構築しておりますが、引き続きこれを継続し、組織体制の見直しを進めながら、より自分たちの強みを伸ばし、理念の実現に向けた様々な取組を強化してまいります。

クムレの**ありたい姿・理念実現**に向けた**道筋**

法人理念・ミッションの実現に向けて

「ともに育ち ともに生きる」理念を具現化した地域社会の実現
あらゆる人たちが地域でワクワクしながら成長する街の実現
クムレの地域社会モデルを具体化し、Well-being corporation へ進化

北極星

グランドデザイン 2035 年に向けて

大きな社会環境の変化に対応

- ① 共生型事業・経営を推進するために、理念とそろばんを両立できるコア人財を育成。コア人財を中心に、クムレの社会開発と事業発展と人財成長のサイクルを形成し、エリアから発展したいいくつかのアローパチームを中心にサイクルを進捗
- ② ベースキャンプは法人内外の事業推進・コンサルを中心業務とし、事業所を自立した事業体へ

山頂

2025 年中期計画終了に向けて

少子化・制度改革への対応

- ① 経営のシステム化を通じ、標準化・定型化・指標化を進め、経営のPDCAサイクルを促進するために、マネジメント力強化を進め、幹部人財やマネジメント体制を再構築（エリアの体制・仕組確立）
- ② 経営データの情報化を進めるために ICT を活用し、事業所管理を情報に基づき改善し、制度・政策の変更や新規事業へ対応したアジャイル型経営へ

山小屋

2023 ~ 2024 年

- ① 理事長・役員を中心に、山登りに向けたチーム（エリア）に対し、基礎スキルやシステムを構築し、コア人財を中心にチームが機能するよう ICT を活用し、経営情報に基づいた事業所運営体制と、エリアの事業推進体制を組み合わせ、組織能力を高める。
- ② 組織のシステム化に向け、報告や紙の断捨離を進め、必要な情報を活用できるよう経営のシステム化を進め、チェック機能を強化し、各エリアが登山に向けて自立して進めるよう、伴走型支援事務局体制へ移行していく。

ベース
キャンプ

地域づくりに参加しませんか？

社会福祉法人クムレでは、地域共生型モデルとして令和4年4月にオープンした多機能型重度グループホームをはじめ、生活困窮者支援・居住支援や、既存の制度に当てはまらない相談者の困りごとなど、地域課題の解決にも取り組み、地域を元気にする様々な事業を展開しています。

障がいの有無に関わらず、地域に暮らす人たちが、その人らしく元気に笑顔で生活できる地域づくりを目指しています。ボランティアや協賛金など、ご自分に合った方法で私たちと一緒に地域づくりをしませんか？

後援会

クムレの後援会は、クムレの理念にご賛同される多くの方々で運営されています。「ともに育ち ともに生きる」社会の実現へ向けて、人々から信頼され、地域に必要な組織となるよう励んでいます。新たな福祉課題に取り組む支援活動にご理解をいただき、多くの方のご入会を心よりお待ちしております。

目的

この会は、社会福祉法人クムレが基本理念である『「ともに育ち ともに生きる」に基づき、基本方針を守り地域づくりに貢献する。時代の変遷にともなう地域の福祉ニーズに対して積極的に開拓者として取り組む。誰でも、いつでも安心して利用できる福祉サービスの提供とその質の向上を目指す。』を実践するための支援を行うことを目的としています。

事業及び活動

この会は、目的達成のため次の事業及び活動を行うものとします。

- (1) 保育・障害各事業所の事業活動の充実に関する支援
- (2) 地域福祉の向上に関する支援
- (3) 先駆的な施設・設備の整備の充実に関する支援
- (4) 広報活動の支援
- (5) 地域公益活動の支援
- (6) その他本会の目的を達成するために必要と認める事業

年会費

一般会員（個人）年会費	1,000 円
一般会員（法人）年会費	10,000 円
賛助会員（法人）年会費	20,000 円



いきいきボランティア

クムレの事業所内で、子どもたちや地域の方と関わってくださったり、施設の清掃や環境整備などをしてくださるボランティアを募集中です！特技や好きなことを生かしながら、地域とのふれあいの中でいきいき過ごしませんか？

年齢を問わず、クムレの事業所内でボランティア活動をしてくださった方に、1時間で100ポイント（1日上限200ポイント）がたまります。たまったポイントをクムレ商品（焼菓子・野菜・洗車チケット・雑貨等）と交換できる「クムレいきいきポイント」制度があります。

**クムレ後援会に入会希望の方
または、クムレいきいきボランティアに
ご登録希望の方は
右記までお問い合わせください。**

社会福祉法人クムレ事務局内
〒701-0113 倉敷市栗坂8
TEL: 086-464-0007
E-mail: info@cumre.or.jp

法人沿革

1955年 4月	小ざくら保育園 開園
1956年 3月	社会福祉法人光明会設立
1974年 10月	小ざくら夜間保育園 開園
1975年 4月	小ざくら保育園移転 小ざくら乳児保育園 開園 小ざくら園(心身障がい児通園事業) 開園 小ざくら夜間保育園移転 (現在地の同一敷地内に4施設移転)
1978年 4月	倉敷学園 開園
1981年 10月	小ざくら夜間保育園 厚生省認可第一号
1990年 10月	小ざくら地域保育センター 開設(現 小ざくら地域子育て支援センター)
1993年 4月	あしたば 開設(現 障がい者支援施設あしたば)
2000年 10月	知的障がい者グループホーム 上東ホーム 開設(現 共同生活援助 クムレ上東)
2001年 4月	倉敷地域生活支援センター 開設(現 倉敷地域生活支援センター)
2004年 4月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり倉敷 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり倉敷)
2004年 8月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり児島 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり児島)
2004年 8月	ケアホーム 上東さくらホーム 開設(現 共同生活援助 クムレ上東さくら)
2005年 4月	ケアホーム 上東かえでホーム 開設(現 共同生活援助 クムレ上東かえで)
2006年 4月	指定管理者制度により 倉敷市鶴心寮 を受託
2007年 4月	生活介護事業所 コトノハ 開設
2007年 10月	倉敷発達障がい者支援センター 開設
2008年 1月	障がい児デイサービス事業所 T・L・S・C きらり玉島 開設 (現 児童発達支援事業所 きらり玉島)
2008年 4月	就労継続支援B型デイセンターあしたば 開設(現 就労継続支援B型クラス)
2009年 3月	知的障がい児通園施設 倉敷学園 移転(現 児童発達支援センター 倉敷学園)
2009年 4月	児童発達支援事業所 きらり中庄 開設
2010年 4月	社会福祉法人クムレに法人名変更 児童家庭支援センター クムレ 開設 居宅介護事業所 なないろ 開設
2010年 9月	児童発達支援事業所 きらり水島 開設
2011年 11月	居宅介護支援事業所クムレ 開設
2012年 4月	訪問介護事業所 なないろ 開設 クムレてとて 開設
2012年 6月	通所介護事業所クムレ 開設
2012年 12月	居宅介護支援事業所クムレ庄新町 開設
2013年 4月	共同生活援助・介護事業所クムレ 栗坂 開設(現 共同生活援助事業所 クムレ 栗坂)
2013年 6月	児童発達支援センター クムレ 開設
2013年 11月	就労継続支援B型 やさい畑クムレ 開設
2015年 4月	小ざくら保育園 幼保連携型認定こども園に移行 ひろばにじいろ 開設
2015年 12月	ひろば栗の家(おうち) 開設
2016年 4月	小ざくら小規模保育園 開設
2017年 1月	放課後等デイサービスなないろ 開設
2017年 3月	通所介護支援事業所クムレ 廃止 居宅介護支援事業所クムレクムレ庄新町 廃止
2017年 4月	生活介護事業所 わきあいあい 開設 児童発達支援事業所 きらり児島 移転 放課後等デイサービス コトノハ(旧放課後等デイサービスなないろ) に名称変更
2017年 6月	居宅介護事業所 なないろ 移転
2018年 4月	DV被害者等相談・自立支援充実事業 受託
2018年 7月	住居確保配慮者居住支援法人 指定
2019年 2月	児童発達支援センター 倉敷学園 相談事業所 開設
2019年 8月	企業主導型保育所 くりのおうち保育園 開園
2020年 4月	小ざくら第二保育園(旧小ざくら夜間保育園) に名称変更・移転(連島町鶴新田)
2020年 11月	小ざくら乳児保育園 建替
2021年 4月	さくらんぼ小規模保育園 開園
2022年 4月	つどいのおうちわたげ 開設 多機能型重度グループホーム おうちだ 開設
2023年 4月	訪問看護ステーションクムレ 開設 放課後児童健全育成事業水島仲よしクラブ 運営受託

※事業所名は現在の名称



法人 HP



facebook



Instagram



クムレレポート

発行日 2023年8月吉日

発行人 財前 民男

社会福祉法人クムレ

〒701-0113 岡山県倉敷市栗坂 8

TEL.086-464-0007 / FAX.086-464-0072

HP <https://cumre.or.jp>